

この物語に登場する人・モノ・場所

モドキ

第4章（火の章）では主人公のモドキに加え、もう一人のモドキが登場しました。二人のモドキは、川越市で里神楽に取り組んでおられる「梅鉢会」の神楽師・白石信人さんと村田孝祐さんが演じています。

[里神楽梅鉢会](#) [Instagram](#) [Facebook](#)



るりばら銘仙

主人公のモドキがヤギを探す中で訪れたのは、秩父銘仙の技術と文化を現代に伝える捺染加工屋「るりばら銘仙」の矢野倫代さん。銘仙とは、平織の絹織物の一種で、捺染は染色法の一つです。

[るりばら銘仙](#) [Instagram](#) [Facebook](#)



ロケ地

第4章（火の章）の撮影は、秩父夜祭で賑わう秩父市内で行われました。二人のモドキがお酒を飲みかわすシーンは登録有形文化財である「小池煙草店」をリノベーションしたカフェで撮影されたものです。花火や階段のシーンでは、埼玉県秩父地方庁舎が使われています。

[小池カフェ](#)



身につけているモノ

モドキが履いている**足袋**は、かつて「日本一の足袋のまち」と呼ばれた行田市で足袋作りを続けている「イサミコーポレーション」による「イサミタビ」です。ひとつひとつ丁寧に手作りで作られています。



[\(株\) イサミコーポレーション](#)

[Instagram](#)

[X \(旧Twitter\)](#)



モドキが羽織っている**半纏**は、八潮市の「相澤染工場」で、伝統的技法によって作られた藍染の半纏です。

[\(有\) 相澤染工場](#)

[Instagram](#)

[X \(旧Twitter\)](#)